










第 3 期高津区区民会議調査活動 2011 まとめ

- 調査日時 平成 23 年 6 月 2 日 (木) 午後 1 時～5 時
- 参加者 区民会議委員 伊中委員、河村委員、木村委員、金委員、佐藤委員、坂本委員、富田委員、仲村委員、長谷川委員、横山委員、吉田 (豊) 委員、吉田 (知) 委員
事務局 八木課長、佐藤担当係長、塩澤職員
- 視察地 坂戸公園、KSP 自由広場、溝口南公園、上作延第 2 公園、上作延農住公園、梶ヶ谷第 3 公園、千年中央公園

公園名	地元対応者	調査概要
<p>坂戸公園 (坂戸 3-10-8)</p> 	<p>日野屋氏 (坂戸第 2 町会会長、坂戸公園管理運営協議会会長) 若杉氏 (KSP 環境保全等住民委員会事務局長) 佐藤氏 (坂戸住宅自治会副会長) 清水氏 (坂戸長生会副会長・廃棄物減量指導員) 水上氏 (坂戸住宅自治会防犯指導員)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 坂戸第 2 町会、坂戸住宅自治会の 2 つで、公園の管理をしている。以前は愛護会だったが、平成 21 年度から公園管理運営協議会を立ち上げた。構成メンバーは、町会・自治会の役員。 毎週日曜に町会・自治会で簡単な清掃を行なっている。 周辺の植栽の植込み・刈込などは、住宅自治会の人を中心にした「仲良し会」(第 2 町会からも一部参加)が行なっている。 坂戸住宅自治会の婦人部が主催し、フリーマーケットを実施している。今回が 4 年目、第 5 回の開催。54 ブースを設置するが、大変人気があり満杯になる。中原区、宮前区、多摩区等からも出店しており、かなり人が集まる。 長生会 (坂戸住宅自治会老人会) では、パターゴルフを火曜、木曜、金曜の午前中に実施している。 公園体操を毎週 1 回実施している。 子ども達もよく利用している。昼間は親子連れ、下校時刻になると小学生が遊びに来る。 年に 1 回各町会と自治会がそれぞれ盆踊りを開催している。 隣接して保育園があり、以前は町会・自治会と連携して公園を活用していたが、保育園が民営化されたことにより連携できなくなった。 砂場に猫がフンをするので、シートをかぶせている。衛生上の観点から、改善が必要だ。また、ときどき砂を補充するが、持ち帰る人がいる。 風が吹くと砂が民家に飛ぶので、人工芝にするなどの改善が必要だ。排水を良くするため、一度整備された公園の形を変えた。 自転車を乗り入れる子どもがいる。見かけたときは注意する。親同士で話に夢中になり、子どもが花をむしっても気が付かない状況である。 周囲の花壇に自転車が入ってしまうため、入れないようにフラワーポットを設置している。フラワーポットは川信の本店からいらなくなったものを譲り受けた。 カラスが樹木に巣を作り、市に頼んで撤去してもらったが、すぐに木が茂ってしまう。 パターゴルフをする人は高齢なので、トイレを設置して欲しいという要望がある。臭気の問題等があり、どこに設置するかが難しい。防災用の簡易なトイレを整備することで、防災時にも役に立つ。
<p>KSP 自由広場 (坂戸 3-2-1)</p> 	<p>若杉氏 (KSP 環境保全等住民委員会事務局長)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ここは公園ではない。建物を中心に回遊できる形にするために造られた広場で公開空地。株式会社ケイエスピーが第 3 セクターのため、自由に利用できると勘違いしている人が多いがそうではない。 KSP は民間が主導で開発したものであり、その中の一部として株式会社ケイエスピーが入っている。敷地内のケイエスピーの公開空地は一般の人が出入りできる。 管理面等で問題が発生した場合には、周辺の 8 町会自治会からなる住民懇談会と KSP の管理運営会社である (株) ケイエスピーコミュニティが協議をして対処している。 公立の公園と違い管理会社と協議をしながらの利用になるが、場合によっては町会で回覧板をまわすなどして協力しながら活用を進めてきた。 これまで近隣からの苦情はあるが、トラブルはほとんど起きてない。 以前は坂戸公園と同様地面は砂だったが、風が吹くと住宅に飛ぶため、話し合いの結果 1,600 万円をかけてアンツーカー舗装 (全天候舗装) をした。 住民の要望で周辺に桜を植え、花見ができる。 出初式の会場になっている。 芝生が半分あり、当初は使っており川崎フロンターレの対戦チームがホテルに宿泊する際、練習場として利用することもあったが、管理上の問題や芝が荒れるため今は開放していない。 一時、早朝にこの広場で犬を放し飼いに行けることがネットに書き込まれ、大勢の人が犬の散歩に来て、ゴミ箱が犬のフンで大変だった。そういったことも、管理会社が対応している。

		<ul style="list-style-type: none"> ・全面ボール遊びが禁止だが、一定の制限を付けることでボール遊びをできないか？ →管理会社の責任問題がある。使う人たちがそういうことを理解した上で、きちんとフォローできるのであれば、何らかの形でボール遊びをすることは可能ではないか。 ・騒音などが出ると、周辺から苦情が出る。周辺の住民のことも考えながら利用しないといけない。 ・清掃は、剪定等も含め管理会社が行う。
<p>溝口南公園 (溝口3-10-8)</p>  	<p>小竹氏 (溝口第1町会会長) 鈴木氏 (高津こども文化センター館長)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年、管理運営協議会が立ち上がり、隣接するこども文化センターと連携した新しい取組みを模索中である。 ・お年寄りが日向ぼっこに来る。近隣の幼稚園、保育園の児童が、保母さんたちに連れられて遊びに来る。 ・朝からベンチに座り、酒を飲んでいる人がいる。中には子どもをかわいがり、お菓子をあげる人がいるので、困っているお母さんもいる。 ・月1回、第4火曜朝10時から清掃をしている。 ・管理運営協議会としては、これだけの広場を活用して、子どもやお年寄りのための行事を何か企画できないかを、今年度の目標の一つに掲げている。 ・例えば、バーベキュー大会、納涼祭、真夏のビアパーティーなどができると良い。 ・第1町会の最大の活動テーマは災害対策である。首都圏直下型地震発生時の避難場所は高津小学校だが、周辺住民がすべて避難できるわけではない。こども文化センターを含めて公園をどう避難所として利用できるか、そのためにはどのような手続きが必要かを検討している。 ・周辺の保育園の園庭が狭いので、運動会シーズンに公園を貸してはどうかと考えたこともあるが、事故が起きた時の管理責任の問題があり、実施は難しい。 ・立木に登るべからずの看板が下げられている。ボール遊びも禁止だ。禁止事項ばかりの公園ではなく、木登りくらいは自由にできる、野性味のある公園にしたい。(以前、事故があったことは大変気の毒だと思う)。 ・こども文化センターとしては、地域全体で子どもを見守っていく中で、どのような運営が良いのかを模索している。木に登ることを禁止するのではなく、「どうすれば安全に降りられるのか試してごらん」などと言いながら、こどもたちの行動を見て声をかけている。 ・職員の体制が限られているので、こども文化センター内と公園の両方を見るには限界がある。管理運営協議会や地域の力を借りて、子どもたちがのびのび遊べる場として活用されると良い。 ・植栽は、道路公園センターが管理している。 ・砂場は掃除をしているが猫や犬のフンがあり衛生的に良くない。夜間はネットを張るなどの措置を、公園の管理事務所に申し入れる予定である。 ・利用者のマナーの問題もある。朝からお酒を飲み、公園を灰皿だと思いタバコのポイ捨てをする。その人たちと戦うためには、それなりの覚悟がいる。 ・管理運営協議会で掃除をするようになったことが飲酒やタバコのポイ捨ての抑止力になり、多少は改善された。こども達の関わり方も変わった。 ・子どもたちにできることとして、来月から「ちょいボラ」として、公園の清掃や館内の整理を運営協議会と協力して実施する。
<p>上作延第2公園 (上作延462)</p>  	<p>志田氏 (上作延第2公園管理運営協議会会長・上作延第2住宅自治会会長)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・上作延第2住宅自治会が愛護会として活動している。言わば「園長」として、毎日活動している。 ・清掃は近所の人々が毎日やってくれているのと、当番制の全体の掃除は月に一回、他にゲートボールや公園体操で利用する人が各自で掃除をする。 ・大きな木の枝おろしは市がやってくれる。小さな木は自分でやってしまう。 ・ゲートボールを火曜、木曜、土曜に実施している。 ・公園体操は毎週水曜10時から実施している。 ・砂場にはシートを掛けないと猫がフンをする。毎朝見周りをしてフンの掃除をしている。遊んだ後はシートを掛けてくださいと書いてあるが、かけずに帰る子どももいるので、夜の見回りの際にかけている。 ・午前中は幼児の親子連れが約10~15人、午後は幼稚園児・小学生が5時のチャイムが鳴るまで約20人が遊んでいる。 ・隣接してスーパーがあり、買い物をしている間子どもを公園で遊ばせる親が多い。 ・樹木が多いのは良いが、去年は4箇所、今年は2箇所、カラスが巣を作り、危険なので早めにとらえている。 ・夏はビニールのプールを買ってきて、水遊びをしている。 ・ゴミ箱のゴミは水曜に市(生活環境事業所)が収集する。ゴミ箱がない方が、ゴミが散乱する。 ・周辺に団地が隣接している公園であれば、人が集まり何かを一緒にやる可能性があるのではないかと。←団地の住民が高齢化している。世帯数が約125と少ないので、難しいのではないかと。

<p>上作延農住公園 (上作延 937)</p> 		<ul style="list-style-type: none"> 公園と調整池の間の広場が周囲から死角になっており、治安面で不安がある。 調整池のフェンスの出入り口は乗り越えることが可能な高さで、中に入って遊ぶ子どももいて危険だ。
<p>梶ヶ谷第3公園 (梶ヶ谷 3-17)</p>  	<p>村田氏 (梶ヶ谷町内会会長) 渡辺氏 (// 副会長) 三田氏 (// 副会長) 石井氏 (// 総務部) 村田氏 (// 美化担当)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 最近小学校高学年が学校から帰ってくると、サッカーボールや缶で遊んでいる。 午前中は、保育園の子どもたちが先生と一緒に10名くらいが2時間くらい遊んでいる。 日曜など天気の良い日には、お母さんが小さい子どもを連れて遊びに来る。多い時には10組ほどの家族が来て、子どもたちが遊んでいる間、お母さん同士で話をしている。 年に1度フリーマーケットを実施している。 町会としての集まりは、この公園ではあまりない。町会では、梶ヶ谷第2公園を利用して花見などを行っている。 愛護会では、毎年12月23日に大規模な枯葉の掃除をする。ニコニコ会(老人会)や、婦人部も日常的に掃除をしている。 町会は1,550世帯。掃除に参加するのは約40人程度。清掃の際には、新作等近隣の公園利用者にも声を掛け手伝ってもらっている。 尾長鳥等、野鳥がたくさんいる。カラスも多く危険。 公園敷地内に、西福寺古墳がある。周辺の高台に5、6個古墳があったが、戦後は畑になってしまった。古墳から埴輪が出土し、教育委員会が管理している。 古墳には登れないようになっているが、子ども達は登っている。 古墳は教育委員会、公園は公園課、公園の周りは土木課の3課で管理をしているため、樹木の伐採等なかなかスムーズに進まないことがある。 愛護会を管理運営協議会にするのはなかなか難しい。 夏休みになると花火やバイク等の問題が出てくる。 トイレはタクシー運転手などによく利用されている。
<p>千年中央公園 (千年 797)</p>		<ul style="list-style-type: none"> 緑のネットがどのような経緯で設置されたのかを事務局が確認する。
<p>終了後の振り返りでの意見</p>	<p><防災面での活用></p>	<ul style="list-style-type: none"> 大きな公園には防災備蓄倉庫がある。街区公園が持っている遊び以外の面での利用度の高さを周知していく必要がある。子育てが済んだ世代にとっても大切な場所であることを認識する必要がある。 世田谷区の太子堂では、小さな公園に災害時トイレ用のマンホールと水(井戸や雨水槽)がある。 世田谷区の公園には必ずマンホールがあり、災害時のトイレとして利用が可能である。坂戸住宅には障害のある人が居住しており、遠くに避難できない人たちが公園に避難するので、試験的に災害時用のトイレを整備してはどうか。坂戸公園なら、理解が取りやすいのではないかと。何かの時に、「あって良かった」と思える公園にすることで人をつなぐことができるのではないかと。 東京都は下水道の関係でマンホールの設置が可能であるが、川崎市は難しいと思う。 ・ 災害時のトイレと公園のトイレはそれぞれ別の問題。災害時のトイレについては提言する方向で検討を進める。公園のトイレについては、臭いの問題などで設置を反対する人も多く、その解決方法を考える必要がある。 防災という観点から公園を考えるのか。川崎市では避難所は小学校区単位、備蓄倉庫は中学校区単位という決まりがあり、これとの整合性が必要になる。 溝口南公園は隣接してこども文化センターがあるので、避難所という発想が可能である。公園はあくまでも一時避難所としての位置づけだ。 防災の観点から公園を見直すのであれば、水や炊事場の必要性など、別の観点からの検討が必要だ。

	<p><公園のトイレ></p> <p><ホームレスの問題></p> <p><西部公園事務所跡地></p> <p><利用者と管理者の視点></p>	<ul style="list-style-type: none"> ・災害の状況にもよるが、体育館だけでは避難所として受け入れられる人数に限られる。こども文化センター、老人憩いの家なども避難所として活用する必要がある。 ・市内には大抵の公園にトイレがあるが、川崎市ではトイレのある公園を探すのが大変。トイレの設置で活用の可能性も広がる。 ・トイレについては、公園周辺の住民にも配慮する必要がある。 ・熱心に公園に関わる人が地元一人いることで、公園の魅力が上がる。 ・公園内には多くの樹木があるが、名前が掲示されていない。名称を掲示できると良い。 ・各公園が違って、一つのルールのもとに何かをするのは難しいと感じた。 ・公園内で酒を飲むなど、好ましからざる人が来ている場合もある。時間を持て余している人たちが公園の清掃や子どもたちと遊ぶ等の方向に変わると、「つながる」ことの手がかりになるのではないか。 ・ホームレスが一度住み着いてしまうと、追い出すのが大変難しい。ホームレスが住み着かないように、現状を持続させたい。現在、下作延中央公園に住み着いている。 ・橘公園は面積が広く、管理がうまくいっていない。昨年3月までは事務所があり職員が在中していたが、事務所がなくなってからは管理が行き届いていない。夜中学生がたむろするなど、トラブルも発生している。おやじの会でパトロールを週2、3回実施している。 ・公園を利用者の目で見ると、管理者の目で見ると、見方が違って来る。管理者からするとボール遊び等禁止看板が多くなる。利用者にとってもある程度ルールがあることで、老人から子どもまでが多様な用途で使える公園が良い。利用者が利用している公園が良い公園だ。
--	--	--